

令和6年度 いのちの授業 事例集（特別支援学校）【特別活動】

掲載数

6

管轄	学年	教科等	テーマ	内 容	参考事項（講師・教材等）
1 横須賀市	中複合	特別活動	避難訓練	地震を想定した避難訓練の後に、校内の職員と児童生徒で引き取り下校の練習を行い、下校をした。普段とは違う雰囲気や動きなため、不安や不思議がる児童生徒の様子が見られたが、いつ災害が起こるかわからないため、このような練習で疑似体験をすることで実際に災害が起きたときに今回の動きを思い出して落ち着いて行動できるのではないかと思う。	全校児童生徒
2 神奈川県	中複合	特別活動	防災教育 防災訓練	体育館での授業中に抜き打ちシェイクアウト訓練を行った。発災時の周囲の環境、自分の身体の状態を踏まえ、身を守る行動について生徒それぞれで考え、実行した。 訓練後には、シェイクアウトの体制（①しゃがむ ②頭を守る ③動かない）の意味について、改めて確認を行った。	
3 神奈川県	中複合	特別活動	防災教育 「地震や火事からいのちを守る」	消防署と連携を図りながら起震車体験、煙体験、消火器体験を行った。起震車では地震の際にどのように身を守るかの話を聞いた後に、起震車が揺れる中で机の下に身を隠す行動ができていた。また、煙体験では視界がほとんどない中でハンカチで口元を抑えて歩く体験をし「怖かった」という感想が多くあがった。消火器体験では的に向かって消火作業を行った。よく見て照準を調整しながら消火作業をすることができていた。 今回の体験を通して災害から自分で自分の身を守ることの大事さや具体的に身を守る体験をしたことで、地震について話題に出すなど意識を向けられる生徒もいた。	高津消防署の協力のもとロータリークラブと実施した。起震車、煙体験ハウス、水消火器を使用した。
4 神奈川県	高複合	特別活動	演劇鑑賞 生きることの大切さ	人形劇団による鑑賞会を行った。 「9月0日大冒険」という劇は、主人公が恐竜の時代にタイムスリップし冒険しながら、生きている動物を触ったり、川で釣った魚を苦心して焼いて食べたり、ジャングルに分け入ったりして、様々な生き物たちと出会いながら、それぞれの生物が生き生きと活動していることがわかる作品であった。児童生徒は実態差はあるが、鑑賞を通していのちや生きることの大切さについて学ぶことができた。	小学部・中学部・高等部（分教室除く）で実施した。 文化庁公演 人形劇団 ひとみ座

5	神奈川県	中複合	特別活動	防災教育 「土砂災害が起こったら…」	土砂災害が起こったと想定して避難訓練を行った。その事後学習として、土砂災害が起きる仕組みの話をし、学校が土砂災害警戒区域に建っていることを地図を使って確認した。また、校内で最も安全な場所が体育館であることから、避難訓練では体育館に避難したことや、災害が校外で起きた場合の避難の方法などについても確認した。実際の土砂災害の映像も使用したことで、より危険について感じる事ができた様子だった。	小中学部合同で行った。 (参考資料) 神奈川県土砂災害警戒情報システムHP等
6	神奈川県	高 1	特別活動	防災教育 「災害から命を守る」	校内防災宿泊学習の一環で、防災学習の講師に消防署職員の方を呼び、煙体験や消火器の使い方講習を行った。煙体験では「煙は上と下、どちらに行くか?」という質問に対し意欲的に答えたり、煙体験ボックス内を通るときにハンカチで鼻と口をしっかりと押さえたりする等、主体的に参加しようとする姿勢が見られた。体験型の学習を通じて、生徒それぞれが防災に対する意識を高めることができた。	講師は、地域の消防署職員。煙体験ボックスと練習用の消火器を持参いただいた。